



沈黙

シリーズ～詩編～

2015/9/27

ダビデ王のこれまで

- 若くして次期王に任じられた
 - 8人兄弟の末っ子で、羊の番をさせられていた
- 音楽療法士として戦士として仕えたサウル王から命を狙われ逃げ回る
 - 2度サウル王の命を奪うチャンスがありながら実行しなかった
- サウル王の死後王となり、「契約の箱」を都に運び上った
 - ダビデの人生の絶頂期
- 周囲の国々を平定しダビデ王国を確立した

ダビデ王のこれまで

- 忠義の家臣の妻(バト・シェバ)を奪い,家臣を殺すという大罪を犯す
 - しかも,預言者ナタンによって指摘されるまで気付かなかった
 - バト・シェバが生んだ最初の子は死んだ
- 寵愛していた息子アブサロムが謀反を起こし,ダビデは都を追われる
 - 腹心の部下までもアブサロムに荷担した
- ダビデを撃つため兵を起こしたアブサロムが,逆に戦死した
 - ダビデは,自分が代わって死ねば良かった,と言って号泣した

詩編62篇

【指揮者によつて。エドトンに合わせて。賛歌。ダビデの詩。】

わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。
神にわたしの救いがある。

神こそ、わたしの岩、わたしの救い、
砦の塔。わたしは決して動揺しない。

お前たちはいつまで人に襲いかかるのか。
亡きものにしてしようとして一団となり

人を倒れる壁、崩れる石垣とし

人が身を起こせば、押し倒そうと謀る。
常に欺こうとして

口先で祝福し、腹の底で呪う。

わたしの魂よ、沈黙して、ただ神に向かえ。
神にのみ、わたしは希望をおいている。
神はわたしの岩、わたしの救い、砦の塔。
わたしは動揺しない。

わたしの救いと栄えは神にかかっている。
力と頼み、避けどころとする岩は神のもとにある。
民よ、どのような時にも神に信頼し
御前に心を注ぎ出せ。
神はわたしたちの避けどころ。

人の子らは空しいもの。人の子らは欺くもの。
共に秤にかけても、息よりも軽い。
暴力に依存するな。搾取を空しく誇るな。
力が力を生むことに心を奪われるな。

ひとつのことを神は語り
ふたつのことをわたしは聞いた
力は神のものであり
慈しみは、わたしの主よ、あなたのものである、と
ひとりひとりに、その業に従って
あなたは人間に報いをお与えになる、と。

ダビデ、晩年の悟り

- 周囲の人々は常にダビデを失墜させようとしている
 - そのためなら敵同士でも手を組む
- 表向きは繁栄を喜ぶふりをして、実は不幸を願っている
 - 心の中で何を考えているか分からない

お前たちはいつまで人に襲いかかるのか。
亡きものにしてしようとして一団となり
人を倒れる壁、崩れる石垣とし
人が身を起こせば、押し倒そうと謀る。
常に欺こうとして
口先で祝福し、腹の底で呪う。

ダビデ,晩年の悟り

人の子らは空しいもの。人の子らは欺くもの。
共に秤にかけても、息よりも軽い。
暴力に依存するな。搾取を空しく誇るな。
力が力を生むことに心を奪われるな。

- 人に頼ると裏切られる
 - 「息よりも軽い」とは言い過ぎか？
- 武力に頼って民を従わせてはならない
- 民から搾取できることでいい気になってはならない
 - 悪政には必ずしっぺ返しが待っている
- 権力を拡大することに没頭してはならない
 - マネーゲームに心を奪われてはならない

ダビデ、晩年の悟り

- 「沈黙」して「神に向かう」ことこそ最も大切である
 - 最初は「向かう」、2度目は「向かえ」と自らに命じている
- 人でも、武力でも、権力でもなく、神だけに頼るべきである
 - 神に救いがあり、希望がある
 - 神に頼ることが最高の安全である
- 神に頼っていれば何が起ころうとも動揺しない

わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。
神にわたしの救いはある。
神こそ、わたしの岩、わたしの救い、砦の塔。
わたしは決して動揺しない。

わたしの魂よ、沈黙して、**ただ神に向かえ。**
神にのみ、わたしは希望をおいている。
神はわたしの岩、わたしの救い、砦の塔。
わたしは動揺しない。

「沈黙」について ～キルケゴール～



- デンマークの思想家(哲学者)
 - 19世紀初頭に活躍。42才で急逝
 - 「実存主義の創始者」
 - 「キリスト者としていかに生きるべきか」を問い続けた
- 神の前における「沈黙」こそキリスト者のあるべき姿であると説いた
 - 周囲の喧噪から離れるだけではなく、自分自身の中でもできる限りの会話や発想を中止する
 - 「死にゆく人」の持つ静けさこそ、本当の沈黙である、とした
 - 野の百合・空の鳥に沈黙を学ぶべきである。
 - 真の沈黙は「神に属するもの」である。

「沈黙」のなす業 ～キルケゴール～

- **沈黙は自分以外は誰も責め立てない**
 - 「沈黙する者は自分自身を除いては誰も責めず,自分の苦闘のために人を傷つけることがない。」
- **沈黙は他と比較しない**
 - 他人と比較してしまうとすべてが破壊的になってしまう
- **沈黙はすべてを獲得する**
 - 「沈黙を保つことができる人間は神の子となることができる。なぜなら,沈黙において自分の神聖なるルーツについて神経を集中して考えることができる。しかし,語る者は人間にとどまる。」
- **沈黙は最上のものを理解する**
 - 「沈黙は我々の意識の最も深いレベルに到達するのを助け,その場所で最も高いレベルの意思と遭遇する。」

「沈黙」のススメ ～キルケゴール～

- 「汝は最も深い意味において汝自身を無とすべきであり、沈黙することを学ぶべきである。この沈黙することが発端であり、沈黙のうちに汝はまず神の国を求めるのである。」
- 「神を畏れることと共に知恵が始まるように、沈黙と共に神へのおそれが始まる。」
- 沈黙が意味する所は「神に対する畏敬、すなわち、統べ給うているのは神であり、思慮分別を有するのは神お一人であることを表現しているのである。」

沈黙のススメ ～ダビデ～

わたしの魂よ、沈黙して、ただ神に向かえ。
神にのみ、わたしは希望をおいている。
神はわたしの岩、わたしの救い、砦の塔。
わたしは動揺しない。
わたしの救いと栄えは神にかかっている。
力と頼み、避けどころとする岩は神のもとにある。
民よ、どのような時にも神に信頼し
御前に心を注ぎ出せ。
神はわたしたちの避けどころ。